

独自の経済圏を形成し、開発の遅れがみられたが、八年の才月と五三億円の巨費を投じて昭和四十年五月に全線開通した三太郎国道(国道三号線)の完成は、この地区の孤立性を除き、社会的、経済的に浮揚させる画期的事業であった。

さらに、三太郎国道の改良工事の着手とほぼ時を同じくして、この地区の甘藷栽培に適する立地条件が見直され、風光明媚な海岸線一帯に造成されているオレンジベルトは、本地区の開発発展に大きな役割を果すものと期待される。

この地区は、北部は新産地域八代地区に、南部は鹿児島県に接しており、新産地域と南九州とを結ぶ中間地帯としての役割を持っているが、特に八代地区との経済交流が期待される。

この地区の開発の重点は次のとおりである。

交通通信施設の整備

△道路▽ この地区は、新産地域の直接の波及効果を受け、これと密接に関連しながら発展する地区であるので、新産地域と結ぶ交通施設、特に幹線道路を重点とする整備を行ない、新産地域と一体となった交通体系の確立をはかる。あわせて都市交通の円滑化に資するため、街路の整備を促進するとともに、地区の特性に応じて、観光開発などを目的とする開発道路の整備を促進する。

この地区の開発の重点は次のとおりである。道路は一応整備されているようであるが、通過交通の性格が強く、この地区の開発のための産業道路としては、整備を要する点が少ない。現在未開通箇所のある芦北海岸は、産業、観光両面からも道路整備が急がれ、また、芦北海岸から球磨川沿岸を結ぶ佐敷大野線は、この地区の横断道路として極めて重要視されるもので、そのすみやかな改良を促進する。

△鉄道▽ 鹿児島本線の複線化、電化は、この地区の開発のため緊急を要するものと考えられる。四十五年度までに全線の電化、八代市までの複線化の完成を促進するほか、津奈木、湯浦間の部分複線化を四十二年までに完成するよう促進する。

△港湾▽ 重要港湾水俣港については、水俣臨海工業地帯における重要施設として、工業原材料、製品などを輸送するに必要なマイナス六・五層岸壁および所要の港湾施設の整備を図るとともに、その他の港湾についても地域産業の発展を促進するため、地域の特性に応じた適正規模の港湾の整備を図る。

農林業の近代化

地域農業の開発方向の重点を果樹にし

□ 芦北海岸地域

八代市日奈久町から海岸沿いに南へ四〇雫、水俣市に至る地域は、リアス式海岸の優れた景観と、海水浴場、さらには豊富な温泉街など多様な観光資源をもっている。

国道三号線の全線舗装は、観光面でも一つの大きな転機をもたらしたが、さらに、天

草五橋の完成後は、新しい観光の時代を迎えるに違いない。すでに地元では、天草との観光交流も活発で、架橋完成を目前に、芦北と天草の間の航送船の就航計画をはじめ、宿泊施設や公園施設の造成など、新しい観光地づくりが進められている。

海と山へ伸びる城南の観光

— 三つの県立公園 —

通潤橋をもつ緑川の溪谷を中心とした矢部一帯の、いわゆる矢部郷から、紅葉の名勝内大臣一帯、さらに五ヶ瀬川に沿う蘇陽峡一帯のこの公園地域は、観光客も年々増え、矢部地区だけでも、昭和三十

□ 矢部地域

三角はいわば観光天草への玄関口、年間の観光客約一五〇万人予想されるが、これら九州の主要観光地を結ぶ中継地として三角の重要度は今後益々大きい。地元三角町では、一昨年から日本観光協会および県に依頼、観光診断を実施し、三角港一帯の整備計画の構想を進めるとともにすでに一号橋周辺には民間企業による宿泊施設レストハウス、レジャーを中心とした休

□ 三角海辺地域

養遊覧施設の建設が進められている。国際観光地を結ぶターミナルとしてまた国際港として観光客に楽しく明るい印象をうえつけるような広い視野に立った観光地づくりに大きなポイントがおかれている。

よこがお

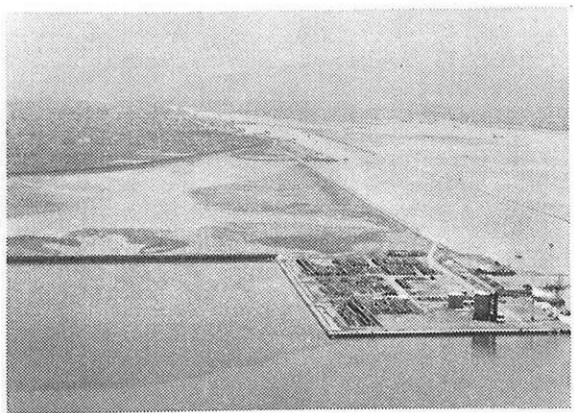
★ 八代港の改修と工業用地造成

臨海部への工場進出がさかんに、一般貨物の海上輸送も増加しつつある。現在、これに対応する港湾施設も大幅な増改修が望まれている。

県南工業開発の拠点

昭和三十九年に本県も不知火、有明地区の新産都市の指定を受けたが、このうち八代地区は九州西部経済開発の中心基地として、又県南部工業開発の拠点と

八代工業用地の埋立作業も軌道に...



して今後大いに発展する希望にもあてい

臨海工業地帯の条件

八代地区は、球磨川河口のデルタ地帯であるため、遠浅で良質な埋立土砂が豊富であり、用地造成は容易で造成価格も安値で現在埋立中の大島南地区以外にも広大な工業用の適地がある。工業用地に隣接する港湾施設整備の可能性については、不知火海が天草島に囲まれて波浪も小さく、航路も一部約二千坪をしゅんせつすることにより一萬五千トンの貨物船の航行が可能となり、また基礎地質が表層五・六層は砂層で、一二〜一五層まで砂質シルト、さらにその下は堅ろうな砂利礫層で、水深一〇層程度までのしゅんせつはポンプ式しゅんせつにより安い単価で施行できる。又、大型船対象構造物は地盤改良により施行するが、小型船は方塊積の安易な工法で施行可能である。工業用水については、球磨川の表流水を取り入れることにより、農業用水を除

き、一日四四万六千トンの工業用として利用できる。

労働力については、豊富に供給でき

る。以上の臨海工業地帯としての適地条件を備えている。さきに述べた既存五大工場を主とした八代港の海上貨物は、従来、紙・パルプの原木・食料品の原料の穀類・セメント原料の石灰石その他鉱物類を移入し、セメント及び球磨川産の砂利、砂と製材等を移出し、その取扱量は昭和三十七年に約一三七万ト程度であるが、大型船の着岸ができないため、糖蜜、原木、穀類等は、三角港で中継し、小船又は陸上の二次転送を余儀なくされていた。昭和三十六年度より着港地区の外国貿易対象の大形船けい船岸壁が昭和三十八年十一月に一パース出来、三十八年より外貿輸出入貨物の取扱も約七万八千トから、昭和四十年には約一九万トに延びて、中継輸送の問題も逐次解消しつつあり、四十年度の海上貨物内外貿取扱は約一七〇万トに増加してきた。

進む改修五カ年計画

既存工場を主体とした貨物だけでも、港湾施設が整備されれば海上輸送は増加の傾向にあるが、果が工場適地として用地造成にかかった大島南地区用地に工場

意欲的な工業用地造成

工業用地造成については、農林省が施行して八代港干拓地二五五万平方尺を昭和四十年に買収して、ここに公共事業のしゅんせつ土をなるべく多く利用した埋立により二一〇万平方尺の工業用地(大島南地区)を計画し、第一段階として約七〇万平方尺の完成を目標に工事中である。